

# No. 1386

## 生きて故国の土を！

— 伊藤律氏帰国 —

「生きて故国の土を踏むことができ、この喜びはまことに無量なものがあります」9月3日、午後、中国から帰国した元日本共産党政治局員、伊藤律氏は成田空港で一言だけ挨拶し、多くを語ろうとしなかった。北京まで迎えに行った二男の淳さんに付き添われた車イスの伊藤氏は、かつて共産党の“ナンバー2”といわれた面影はなかった。なぜ今ごろ突然帰国したのか、その疑問に応えることもなく、ただちに昭島市の病院へ。6日午後、伊藤氏の妻キミさんが同病院を初めて見舞った。昭和25年レッドパージで伊藤氏が地下に潜行して以来30年ぶりの対面、共産党を除名された老革命家と、今も共産党員である妻の立場からだろうか。30分の対面は涙もなく淡々としたものだったらしい。キミさんは「夫について話すことはなにもありません」と記者会見。伊藤氏が“過去”を語れば、現在の共産党への影響は避けられないというだけに、今後の伊藤氏の言動が注目される。

## モンパルナスの美

モディリアニ、ユトリロ、キスリング、エコール・ド・パリの代表作家三人展が今東京渋谷の東急デパートギャラリーで開かれています。20世紀初頭、世界中の画家たちが芸術活動を求めて、モンマルトルやモンパルナスへと集まってきました。その中でもひととき異彩を放っていたのが、独特のフォルムのモディリアニ、詩情あふれるパリの風景を残したユトリロ、神秘的色彩のキスリングの三人でした。彼らの芸術は愛と苦悩そのものであり、残された作品は生命の輝きでもあります。

## ガス爆発防災訓練

— 東京・新宿 —

多数の死傷者を出した静岡駅前地下街のガス爆発事故。9月1日は防災の日。この日東京新宿で地下、地上一体となって、ガス爆発事故を想定した大がかりな訓練が行われました。この訓練には東京消防庁をはじめ、警視庁、地下商店街などから1,500人が参加、また車両もパトカー、消防車など84台も参加しました。爆発現場ではたち込める白煙のなか警視庁レスキュー隊が負傷者を救出。これまでの防災訓練ではあまりお目にかかれなかったガス検知訓練も行われました。これは2次爆発を起し被害を広げた静岡での事故を生かしたものです。カットバルーンと呼ばれる排煙装置もフル回転、噴霧放水。これは霧状の水を送ることで地下に残っているガスを拡散させるとともに水幕を張ることで万一、2次爆発が起っても消防隊の被害を最少に食い止める東京消防庁苦心の「ガス制圧作戦」。地上では事故発生と同時にガスシャ断訓練も行われました。炎上したビルに取り残された人々を救出するためにハシゴ車が出動。ガスがまだ付近に残っているとの想定で動力を使用せず長い階段を自力で降りる実践さながらの訓練には集まった見物人からため息がもれていました。大地震の動静が不気味な昨今、地下街の防災には十分したいものです